

# **G**OVERNOR'S **MONTHLY LETTER**

# 8

2010-2011  
ガバナー月信



**国際ロータリー第2510地区**

2010-2011年度ガバナー

**佐々木 正丞** MASATSUGU SASAKI

〒060-0042

札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F

TEL (011)207-2510 FAX (011)207-2512

E-mail : rid2510@nifty.com

<http://www.ri2510.gr.jp>

2010-2011年度  
国際ロータリーテーマ

「地域を育み、大陸をつなぐ」  
Building Communities Bridging Continents



## 国際ロータリー第2510地区 2010-2011年度



- I クラブの活性化、会員増強に向けて、CLPの導入検討をしよう
- II 地域ニーズを踏まえて、地域密着の奉仕活動を実践しよう
- III ロータリー財団の理解を深めて協力支援をしよう  
「毎年一人100ドル」を協力しよう



ガバナーメッセージ「感謝の一年」	1
地区ガバナー補佐退任挨拶	2
地区委員会委員長退任挨拶	6
小平RCの国際ロータリーからの脱会について	18
『食市食座』報告書(第12グループIM報告)	19
第2グループIM・赤平RC創立50周年記念式典報告	20
新入会員のご紹介/訃報	21
ロータリー財団寄付、米山寄付	22
出席率・会員数(5月)	23
出席率・会員数(6月)	24



## 感謝の一年

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

2010-2011年度の地区ガバナーとしての私の任期が6月30日で終わりました。この間、何百人、何千人ものロータリアンのご好意を戴き感謝に耐えません。

この年度、当地区は地区ガバナー補佐研修セミナー、地区チーム研修セミナー、会長エレクト研修セミナー、地区協議会、地区大会と順調に過ごして参りました。特に地区大会においては、伊藤義郎RI元理事の直接指導を受け、「ロータリーを論ずる」というテーマで開催されましたが、会場から予想外の質問・意見で盛り上がり活況を呈しました。

また、ガバナー公式訪問においては「こんなにも愉快的な、地域に駆け込んだ活動をしておられるのか」と感心しました。そして、このような良いことは広くみんなで共有すべきであると思ひ、阪崎社会奉仕委員長にお願いして出来上がったのが「社会奉仕活動レポート」であります。どうぞご活用戴きたいと思ひます。その外にも周年行事やIMはそれぞれに特色があって大変勉強になり、また楽しませていただきました。

しかし折り返し時点から二つの事件がありました。その一つは、小平ロータリークラブの国際ロータリー脱会であります。これはガバナー諮問委員会の皆さんも大変深刻に受け止められました。何しろ我が地区では前例がないことだったからです。何とか解決策はないものかと努力しましたが、結局私の非力のため如何ともあたわず脱会となり、1クラブ7名を失うということになりました。誠に申し訳なくお詫び申し上げます。

もう一つの事件は3月11日の東日本大震災であります。その翌日、小樽におきまして熊澤エレクト（当時）のご英断で2011-2012年度の会長エレクト研修セミナーが開催されましたが、それはそれは熱の入ったものでした。この年度は私の地区内ロータリー運動を更に活性化したいという願いを託するに過ぎるものであるという風に感じました。

2日後には熊澤エレクトの呼び掛けで震災の対応策を検討しました。その結果、すぐ対策プロジェクトチームを立ち上げる。それは少なくとも熊澤年度にも引き継がれること。すでにガバナー会の要請に応じて送った1400万円の他に1000万円の浄財を募り、これの活用策についてはこれから討議すること、などが決まりました。この特別委員会委員長を阪崎さん（札幌西RC）、副委員長は堀江さん（砂川RC）、柳さん（札幌南RC）であります。

一方、ガバナー会ではRIの要請に基いて全国のロータリークラブから集まった10億円近い募金のうち約1億円あまりを被災地に拠出し残り9億円は二つの方法すなわちⅠ. 高校生、大学生の被災者に対して育英資金を給付する。（これは5年計画）Ⅱ. ファイブ フォー ワン、すなわち1つの被災クラブを5つのクラブで応援する、というものであります。ガバナー会はこの運動を手続要覧の第2章、地区の他地区合同の奉仕活動プロジェクト（36～38頁）によってRI事務総長に早速手続きをとる考えのようであります。但し今後の運営と手続きは当然、熊澤年度の34名のガバナーに引き継がれます。

以上、2つの事件が順調にきたこの年度の活動に大きな影響を与えました。

しかし私の提唱した1. CLP、2. 社会奉仕、3. ポリオ、につきましては、いずれも難問ではありましたが、だいたいご協力を戴けたと思っております。その外にも会員増強、財団、米山への寄付などの例年通りの課題が念頭にありました。今日現在ではまだ6月末までの数字を把握しておりませんが、まずまずの手応えを感じております。

さて昨今の日本のロータリークラブメンバーは減退の方向にあることがはっきりしています。世界的には横ばいですが、インド、韓国などは伸びております。日本は今、世界シェアの7から8%しかありません。RIは社会活動重視を唱え、激しく改革しようとしています。その根拠は統計的手法を使ったオピニオンだとしておりますが。

来るべき2013年の規定審議会に対して今から日本全地区で準備する必要があります。2010年の規定審議会では五大奉仕とかEクラブの出現に驚きました。2年後の2013年の規定審議会では人頭分担金の20人への高上げや、1200人以下の地区の統合などRIは効率化に向って動こうとしています。また、その視線をどんどん若い人に向けてきております。どうぞ、この1～2年、熊澤ガバナー、細川ガバナーエレクト、安孫子ガバナーノミニーのご活躍に期待すること大です。

## 地区ガバナー補佐退任挨拶



### 補佐の任のお陰で!!

第1グループ担当  
ガバナー補佐 實藤 吉信  
(羽幌RC)

『遠くを見ないと、見えないものがあり、遠くから見ないと、見えないものがある』

私くし、第1グループ5つのクラブを訪問させていただきました。今迄、我がクラブの中でしか実際の活動と会員の意向を求める必要はありませんでした。

今般、ガバナー補佐の任で少し離れた視点で真剣に取り組む自分の姿を知り得ました。ロータリー以外で旧知の多かった深川クラブでは、いつも内から満面の笑みで迎えてくださいました。妹背牛クラブでは少会員ではありますが、正にロータリーの真髄(ポール・ハリス)原点から今ここにある。と感じさせられました。さすが留萌クラブは深川クラブと同じく伝統を強く深く漂わせておりました。小平クラブは本年末7人の会員でしたが、37年間の和やかな毎例会でした。羽幌クラブはホームクラブでしたが、普段着の例会で常に対応して戴きました。やはり出口治康会長のリーダーシップは1年間お世辞無しで素晴らしいクラブですと償したく思います。出口治康会長は終わりの例会で(井の中の蛙)にはならないと申していました。同感です。『学んだら変わる、変わることが学ぶことだから』ロータリーはいつも躍進しています。第1グループの会長さん始め、会員の皆さん有難うございました。



### 退任にあたって

第2グループ担当  
ガバナー補佐 渡部 芳己  
(赤平RC)

期せずして、今期ガバナー補佐を委嘱されましたが、もとよりその器ではありません。しかし、お陰様で佐々木ガバナーの温かな愛情に満ちたご指導、お付き合いをさせていただきました。さらに、担当クラブの会長・幹事様のお気遣い、など、私がこれまでのロータリー人生にとって代えがたい一時期でした。

就任早々、北谷直前ガバナー補佐に「引き継ぎ、またはアドバイスはありませんか?」とお聞きすると、「悔いを残すな」、この一言でした。ですが、本当に、悔いを残してばかりの一年でした。私も、後任者に聞かれたら、「悔いを残すな」と言いたい。

ガバナーの意思を体し、クラブの個性を大切に考え結局、地区にもグループにも貢献できなかったような気がします。

精神的重圧の中で、IMは補佐の責任執行ですので、5月29日はとても長く感じました。赤平クラブの50周年記念と同日開催であったため時間的にも余裕がなく、会員数も少ないので全会員が必死で頑張りました。

IMテーマは「CLPの導入検討しよう。」でしたが、塚原研修リーダーには大変お世話になりました。佐々木ガバナーの指導、グループ内クラブ全会員の理解と協力のもとIMを終えることが出来ました。関係者の方々に心から感謝いたします。

ロータリアンとして、素晴らしい体験をさせていただきました。改めてご指導いただきました佐々木ガバナー、グループ内クラブ会長・幹事はじめ会員の皆様に心からお礼を申し上げます。



### 2010-2011年度を終えて

第3グループ担当  
ガバナー補佐 下段 寿之  
(当別RC)

ガバナー補佐としての私の年度も終わりました。佐々木ガバナーの委嘱を受け改めてロータリー、そしてガバナー補佐としての勉強をさせて戴きました。

そしてRIのテーマ「地域を育み 大陸をつなぐ」、そして地区目標でありますクラブの活性化と会員増強、地域に密着した奉仕活動、財団の理解を深めて協力支援について自分なりの理解を得る為の勉強から始まり、第3グループ各クラブへの理解そして協力へと私なりに努力させて戴きました。

またIMにつきましては「環境といのち」をテーマに北海道医療大学の協力を得て薬用植物園での取組みを見学、そして健康に関する講演を戴きましたが、各クラブの多くの皆さんの温かいご協力、ご支援により私なりに満足のいくものになりました。

さらにグループ内行事としてパークゴルフ、ゴルフをさせて戴きましたが、パークゴルフは運が悪く雨のなかとなりましたが、それなりの友情と親睦が得られたと思います。

この1年各クラブ訪問、IM、親睦行事等一通り無事終わることが出来ましたが、各クラブの皆さんには決して満足のいく事にならず迷惑をかけた面も多々あったと思いますが、私にとりましてはこのガバナー補佐という役割により得たものは非常に多く、そして多くのロータリーの皆さんとの友情の絆が出来ました事は生涯得る事のできない体験となりました。

2011-2012年度、新しくRIテーマ、地区目標が変わりますが、ロータリーの精神は永遠です。第3グループが益々友情を深め、発展されることを祈念し、この1年間のご協力とご支援のお礼と致します。



## 補佐を終えて

第4グループ担当  
ガバナー補佐 **福井 敬悟**  
(札幌手稲RC)

佐々木ガバナーのもと、第4グループガバナー補佐をロータリーの指導的立場の一翼を負い、ロータリーの夢や理想を語るにはまだまだ未熟者が無事任期を終える事が出来たのも、クラブ会長・幹事そして会員の皆様、地区役員の寛容と友情と感謝申し上げます。

例会訪問、ガバナー公式訪問と緊張していましたが、一番の緊張は3月19日開催のIMでした。3月11日の東日本大震災そして極めて深刻な福島原発事故に見舞われ開催も危ぶまれましたが、小山実行委員長そしてホストを引き受けて下さった札幌手稲RC、コ・ホスト新札幌RCの熱い想いで498名の登録を頂き成功裏に無事開催出来ました。そして、懇親会の費用等を削減して「2510地区大震災救援奉仕プロジェクト委員会」に10万円を送金する事が出来ました。

また、WCSタイ・検証ツアー、韓国3700地区・地区大会への参加で得た貴重な体験、各クラブの奉仕活動の実践等々に触れロータリー活動に感銘を覚え、改めて、ロータリーに於いて自分が育てられていることに感謝しております。一年有り難うございました。



## ガバナー補佐退任挨拶

第5グループ担当  
ガバナー補佐 **嘉屋 輝夫**  
(新札幌RC)

東日本大震災、福島原発事故で多くのロータリアンも被災されております。お見舞いと亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。又いまだ行方不明の方が多くおられますが、早期の発見を切に望んでおります。

私にとって「青天の霹靂」が2度ありました。ガバナー補佐の大役を命じられた事、更にIM(3月19日)開催前の3月11日の東日本大震災ですが、いま任を終え安堵している昨今です。思い返せば、各グループ補佐の皆さんとの交流と共にこれから始まるであろう活動に緊張と期待感と不安を感じたのが思い出されます。

この1年間の貴重な経験と多くのロータリアンと知友を得ましたが、浅学菲才の私に対してその温かいロータリー友情をもってご協力戴き、任を終える事が出来ましたこと感謝申し上げます。地球環境が悪化し世界の地図が変わっていく危機感を覚えながら、目まぐるしい時代の変遷に順応せねばならない思いがロータリーと重複する今日この頃の私ですが、これからはこの経験を生かし、一ロータリアンとして地域において奉仕活動をしていきたいと思っております。

佐々木ガバナー、そして第5グループ各クラブ会長・幹事・会員の皆様、1年間誠にありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますと共に、各クラブの益々の発展と各会員皆様のご健勝を祈念申し上げ退任のご挨拶と致します。



## ガバナー補佐を振り返って

第6グループ担当  
ガバナー補佐 **皆川 岩保**  
(倶知安RC)

一昨12月に今期ガバナー補佐の委嘱状を戴いてから公式訪問が始まるまでの半年間は、本当に心休まる日はなかった。私のような者がガバナー補佐をして重責を果たすことができるのか心配でならなかった。補佐として第1回目の研修会が札幌グランドホテルで行われたとき、集まった人々の顔ぶれを見たとき、その不安が一層強くなった。クラブ会長を終えて20数年間、ほとんどスリーピング会員であった自分を恥じた。しかし、受けた以上はやらねばならぬと思い、二度、三度と補佐研修を受けているうちにロータリー哲学を少しずつ身に感じるようになった。特に見延前ガバナー補佐から戴いた塚原パストガバナー著書の「私のロータリーノート」を読んで私の中のロータリー精神が触発された。

昨年8月から始まった佐々木ガバナーの公式訪問に同行してガバナーの最重点目標であるCLP導入について力説されたのが印象的であった。中には異論のあった会長さんもいたが、補佐は会長とガバナーとの間の仲介役でなければならない立場であったが、果たして十分であったかどうかは疑問であったが、良き先輩、同僚、事務局長、事務局員に恵まれ感謝している。ありがとうございました。



## 佐々木正丞ガバナーに感謝

第7グループ担当  
ガバナー補佐 古川大之  
(長沼RC)

2010-2011年度第7グループガバナー補佐をお引き受けして佐々木正丞ガバナーにお会いして、担当クラブ内の公式訪問や地区大会、地区行事等を通して多くのご指導を戴きました。ロータリーの原点に戻りロータリーとは何か、ロータリークラブとは何をする団体なのかを共に考え、クラブ活性化及び奉仕活動について学んだ一年間でした。

しかしながら、3月11日に発生した巨大地震と大津波によって、東北関東を始め、国内の広範囲の地域に甚大な被害もたらされ、尚かつ原子力発電所は極めて深刻な事態が続ぎ、今なお全く予断を許さない状況にあります。今私たちは何ができるのか、人間として何をなさねばならないのか、一刻も早く被災された人達の生活が確保され、一日も早い被災地の復興を願います。

佐々木正丞ガバナーにお会いし、そのお人柄に触れ、1年間共に務めさせて戴いたことに心から感謝申し上げます。何卒今後ともお体を大切に一層のご活躍を願っております。

第7グループの会長、幹事の皆様のご努力及びグループ内ロータリアンの友情に感謝申し上げ退任のことばと致します。



## ガバナー補佐退任にあたって

第8グループ担当  
ガバナー補佐 蚊野好美  
(静内RC)

ガバナー補佐の委嘱状を戴きましてからこの1年半は、グループ内の会長、幹事さんはじめ会員皆様のご協力で、我がロータリー人生において、最も質度の高い1年間となりました。グループ内事業としてのIM、クラブ合同による奉仕活動など担当クラブの絶大なるご協力を戴き履行できましたことに感謝致します。

特にIMにおきましては、フォーラム形式による開催にて、地域のニーズに沿った奉仕活動など多くの情報の交換が出来たことは誠に意義深いものとなりました。またクラブ運営におきましても、それぞれの実践方法に基いた特色あるクラブ運営に尽力されていることが伺えました。

会員各位の好意と友情をもって温かく迎えて戴きましたクラブ訪問は、私の大きな宝となりました。会議を重ねて参りました会長・幹事会におきましても貴重なご意見や多くのことを学ばせて戴く等、本当に楽しい一年間でありました。また、ご指導戴きました佐々木正丞ガバナーはじめ、地区代表幹事の久保田俊昭様をはじめとする地区役員の皆様にも心から感謝申し上げます。有難うございました。



## 出逢いに感謝・一生の宝物

第9グループ担当  
ガバナー補佐 菅 俊治  
(伊達RC)

2010-11年度、レイ・クリンギンスミスRI会長テーマ『地域を育み、大陸をつなぐ』であった。同時にぬくい人間味ある人徳とホッとさせる人柄の佐々木正丞ガバナーの地区目標の発表。「CLPの導入・地域密着の奉仕活動・R財団への協力」を目標に、私自身、多少の不安の中での出発でした。無為無能ながら第9グループ6クラブを何度となく訪問し、会員増強、そしてCLP導入の協力要請をさせて戴きました。

ロータリーの友情により全会員に助けられ1年間が終わりました。会長・幹事会終了後の懇親会では、泉の如くロータリーの今後の方向性、疑問点、そして地域奉仕活動の在り方等、語り合いました。ワイワイ、ガヤガヤと自発的に伊達、室蘭3クラブ、登別、洞爺と会長・幹事会の設営をして戴き恐縮のあまりでした。これぞロータリーとしみじみ感じさせられた一年でありました。

この一年間、佐々木正丞ガバナー始め、各ガバナー補佐、そして第9グループ内の会長、幹事、会員の皆様に唯、唯、心から感謝と御礼を申し上げます。温かい友情と出逢いにしみじみ感謝した一年でありました。



## ロータリーの友愛に感謝

第10グループ担当  
ガバナー補佐 **鍋谷 操子**  
(函館セントラルRC)

ガバナー補佐の職分の大きさは、自分の能力ではとても受諾できることではないと躊躇した時から早くも1年有余が過ぎ去りました。佐々木ガバナー公式訪問ではグループ内会長・幹事をはじめとするロータリアンの心温かいご協力を支えられました。お陰様で、自分なりにその役割を果たすことが出来たのではないかと考えています。本当に心から感謝を申し上げます。

3月11日の東日本大震災には心が痛みました。クラブ、地区、ロータリージャパンそしてRIではそれぞれ支援の輪を拡げています。今後も出来る限りの支援を行いたいと思っております。無我夢中で役割を果たそうとしていた頃から少しゆとりを持てるようになってきた最近までを振り返ってみると、ロータリーも「人」が基本にあることを再認識いたしました。クラブが効果的なクラブ目標を立て、クラブを活性化させていくには、ロータリーの定義に示す「人道的奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守る」を基本として、ロータリーの綱領を実践する「人」に拠っています。ロータリーの発展と社会的認知は、その先輩ロータリアンの英知の結果であり、今のロータリアンが絶やすことなく引き継いでいかなければならない財産です。佐々木ガバナーが掲げた地区目標「CLPの導入検討」、「地域密着奉仕の実践」、「ロータリー財団の支援」についてはグループ内クラブがそれぞれの事情にあわせて実施しています。各クラブの努力に敬意を表す次第でございます。

ロータリアンの「友愛」に支えられた感謝の1年でした。これからもロータリアンが「友愛」をもとに「親睦」を通じてロータリーを学び、ロータリーを実践することに自信と誇りをもって実践して欲しいと念じています。

微力な私の1年ではございましたが、本当に有り難うございました。



## 一年間の思い出

第11グループ担当  
ガバナー補佐 **森元 浩**  
(函館東RC)

ガバナー補佐に就任した当初は、濃い霧の中を歩いているような緊張の連続でしたが、幸いにも各クラブには好意的に迎えていただき、諸先輩にも助けられて、なんとか一年を終えることができました。とはいっても、ガバナーをはじめ地区の皆様へ、ご迷惑をおかけした一年であったと、反省しております。

今年一年を振り返って、印象深い出来事は沢山ありましたが、なんと申しまして、IMの開催が一番の思い出でした。IMの企画を本格化しようという3月11日に、東日本大震災が発生いたしました。一時は、取りやめも俎上に上ったのですが、こういう時期だからこそ、ロータリアンが結束しようという声があり、開催を決定いたしました。当日は、6月18日というロータリーの年度末にもかかわらず、ガバナーを始め大勢のロータリアンにご出席いただき、STV函館放送局の局長様に、報道の立場から見た震災を講演願うと共に、各クラブの会長さんより実践されている奉仕活動について、フォーラム形式で発表いただきました。

又、懇親会では東北の食材や名物料理を取りそろえ、さらに、名産品や銘酒を販売して、その収益は義援金とすることにいたしました。IM全体として、“東北頑張れ、俺たちも応援する”というメッセージを発することができたのではないかと考えております。

このように、皆様に助けられ、勉強しながら過ごした一年でした。ロータリーの友情に、改めて、深く感謝申し上げます。



## 私のロータリーとは

第12グループ担当  
ガバナー補佐 **和歌 宏侑**  
(白老RC)

佐々木ガバナーが公式訪問の目的のひとつに『如何にしてロータリー・ライフをエンジョイされているかを勉強したい』といわれました。

私のこの一年間の目標は、12グループ130名の会員の皆さんに「楽しい例会・楽しんで奉仕」をお願いしてきました。一年間の締めくくりに、インターシティ・ミーティングのテーマは「食市食座」、サブテーマは「絆」で行い楽しんで戴きました。また一層友情を深めることができ、これからの12グループで何か一緒にやれる奉仕活動ができることを願っております。

終わりに、会員拡大純増1を達成できなかったことが残念です。

## 地区委員会委員長退任挨拶

### 地区会員増強委員会

委員長：渡邊 恭久  
(滝川RC・PG)



#### 会員増強について

この一年間、地区会員増強委員長を仰せつかって更に会員増強への思いを熱くさせられた。それはガバナー現役の折りに支援を受けた感謝とお礼を背景に、委員長として任務と責任を果たそうという立場から、積極的にセミナーや研修、資料の検索をしたことが、思いへの動機となったことである。以下増強について述べてみたい。

組織は増強への行為がなければ、自然に会員は減少をしていく。1年1年会員の年齢が上がり高齢化し、病気、死亡、転勤、退職、人間関係の亀裂、他の理由で退会されるからである。会員が増えると互いに触れあう摩擦熱で、組織は活力や魅力を生み出し、その発する磁力でより新たな人を呼び込むに違いない。そして会員が増えることは、組織の体力を強化し、財政基盤を確立して充実した奉仕活動を可能にしていく筈である。組織をいつも生き生きさせておくためにも新しい人材の導入が必要である事は論を待たない。ロータリー最大の財産は会員であることは言うまでもなく、さらに会員を増強することは、ロータリーの未来を託す人材を得ることになり、それは次代への責任を果たすことに繋がる。

世界のロータリー会員数の推移は、2010年3月で1,224,384人とピークに達した。2011年2月では1,213,448人とおおよそ横ばいの現況である。しかしゾーン別で見ると、ヨーロッパ（ドイツ東欧）、アフリカ、およびアジア（日本を除く）は会員を増やしているが、アメリカ、カナダ、日本は逆に大きく減少をしている傾向にある。日本は1996年の130,000人をピークに2011年3月では30%減の90,417人にまで落ち込んだ。従って会員増強はRI組織にとって大切な課題であることは当然だが、発言力など力を持たねばならない日本にとっては減少に対する対策は喫緊の問題である。今クラブ会員を増強するには決して恵まれた環境と言えない。また増強の手法はその地域の風土、クラブの歴史、雰囲気など様々で一様でないことからここで手法はこれであると提案は出来ないが、言える事はクラブが積極的に取り組むかどうかにある。どうかクラブで、増強を最も大切なテーマとして取り上げ取り組んでいただきたいと申し上げ委員長を退任いたします。有り難うございました。

### 地区拡大委員会

委員長：丸山 淳士  
(札幌真駒内RC・PG)



会員の減少が続いている現状の中、クラブの拡大よりも会員維持の対策が重要な課題となっている。

最後に拡大した「函館セントラル」ロータリークラブが元気に会員を維持し活動を続けているが、その前に拡大した、「札幌セントラル」および「札幌大通公園」両ロータリークラブは会員増強に苦戦している現状である。

会員数が少なくても、すべてのクラブは奉仕の理念を貫き独自のすばらしい活動を展開しており、社会情勢の変化とともに会員の増加に期待を寄せている。

今後は、ロータリー学友、女性だけのクラブなど現在存在しない分野での拡大も視野に入れながら計画を立てていく必要を感じている。

## 地区オン・ツー・ニューオーリンズ委員会

委員長：矢橋 温郎  
(札幌西RC・PG)



第102回国際ロータリー年次大会が、ハリケーンの被害に遭い延期になっていた、ニューオーリンズで開催の運びになった。2011年5月21日～25日開催に先立ち、ガバナー月信に例年通り、地区にて二つのコースを用意し募集を開始した。

しかし、2010年12月までに希望者は5名であり、2011年に入って、例年行っていた団体でのツアーは中止のやむなしに至った。他には当地区からは個人あるいはクラブ単位での参加も数名にとどまった。参加人員の希望が少なかった理由として、国際テロのための米国入国審査の厳しさが一因となったようである。従って、恒例の「北海道ナイト」も中止せざるを得なかった。

そこに、3月11日、日本に於いて東日本大震災があり、少ない参加予定者のキャンセルも相次ぎ参加減少に拍車がかかってしまった。

## 地区文献資料室

委員長：八木 徹  
(札幌東RC)



この一年間の活動ですが、資料の整理・追加などはスムーズに進みました。

貸出しリストをWeb上にもアップしました。Web上を見て貸出しを申し込んで頂いた件数が増えていたより多くありました。

今後はこの方法が主流になると思いますので、より借りやすい環境整備が必要と思われました。今後、大きな災害が起こった時の現資料の保管（存続）の方法を合わせて考えて行きたいと思います。

## 地区クラブ奉仕委員会

委員長：川岸 洋一  
(伊達RC)



まずもって「CLPに関するアンケート」に対応していただいた各クラブの会長・幹事さん、又は担当者の方にお礼を言わせていただきます。

おかげさまで、地区内73クラブ中72クラブの回答を得ることができました。その回答は、すでに導入しているが29%、導入を検討しているが33%、導入の予定がないが38%という結果でした。その結果に過去数年間の会員数の変遷やその増減、創立周年等を加味して推察すると、それぞれのクラブで「何とかしたい」と、できる範囲で長年にわたり努力を積み重ねてきたが、良い結果が出せないでいる。これが多くのクラブの現状ではないかと思いました。

ここ数十年、多数のクラブに会員減少という大きな変化が訪れ、資金的・人的に奉仕活動のみならずクラブ運営にも支障が出ているまま、現在に至っているクラブも多いのではないのでしょうか。それでもCLPの導入に二の足を踏んでいるクラブが多いことは、CLPという言葉にクラブの自主性を無視した押し付けを感じ、抵抗があるのかも知れません。

今年度は2011年3月12日に「CLP導入推進セミナー」を開催し、各クラブの導入を期待しましたが、まだ結果が見えていません。

目的はクラブの活力を取り戻すこと。CLPはその手段であることを再認識し、CLPのいいとこどりをしながら、それぞれのクラブが、活発な親睦と奉仕活動を展開していくことを期待しています。

## 地区IC委員会

委員長：堀江 和美  
(砂川IC)



初めての委員長ということで、何か新しいことと思いましたが、全てが継続事業となりました。「第5回目」となる「5分でできるホームページ作成講習会」を平成23年1月22日(土)、午後1時30分より、札幌市学習センター“ちえりあ”で2時間開催しました。「5分で・・・」とあるのに、2時間の講習ですから、「看板に偽りあり」と言われてもしょうがありませんが、ひな型に入力が、5分間以内で、今回受講された方々のスキルが高かったせいと思われるのですが、2時間かけても、「疲れたあー」、「サギだ」とは一人からも出ませんでしたので、「ほっと」しているところです。

しかしながら、5回の講習会を通して、約40クラブ・地区委員会の方々に受講していただきましたが、新規にウェブページを開設していただいたのは、5つのクラブ・委員会にとどまっています。何らかの「講習会」のあり様を模索する時期に来ていると感じています。

地区大会ではブースを開設し、多くの方に訪れていただき楽しい情報交換の場となりました。また過去6年分のガバナー月信を単語検索できるようにしたファイルやロータリー活動に役立つ情報を収録したCDを配布し好評でした。昨年度よりも内容を充実し、ほぼCDの容量650MBを使いきったものとなっています。

また、委員が分担してメールマガジンを配信しました。内容は、「ハイライトよねやま」、「ロータリー為替レートのお知らせ」、「地区ホームページ更新のお知らせ」等です。現在の登録者数は約500名で、1年間で配信したメールは100件でした。

昨年度から地区ホームページをリニューアルし、さらに見やすく、各地区委員会の情報量も増やしておりますが、地区ウェブサイトは、資料保存という面も持ち合わせていることを意識して、「RID2510資料集」というサイトも立ち上げています。

1年間、皆様の温かいご支援を賜り、また委員会メンバーに支えられ無事に任期を終えられたことを感謝申し上げます。

## 地区米山記念奨学委員会

委員長：黒澤勝昭  
(札幌南RC)



### 米山記念奨学事業にご理解とご協力を

地区米山記念奨学委員長を委嘱されて2年目になりました。米山記念奨学事業は、①寄附金事業、②米山記念奨学生の受け入れが大きな事業となります。

地区の寄附金の総額によって、米山記念奨学生の受け入れ数変動する仕組みになっています。第2510地区は、全国34地区の中でもいつも25位前後で推移しています。毎年、12月に全国34地区のガバナー・エレクトと次年度米山奨学委員長の合同セミナーが本部（東京）で開催されます。このセミナーでいつも第2510地区の状況は他の地区に比べると、寄附金事業、奨学生の活動等において、まだまだ学ぶべきところがたくさんあります。

特に、寄附金事業については全国平均（14,600円）を大きく下回り一人当たりの寄附金は2011年6月末現在10,047円で全国34地区中第24位となっています。当地区の目標金額は普通寄附4,000円、特別寄附12,000円ですが、目標額に対して達成率62.79%という状況です。総額も会員数の減少により減額（2000年度⇒3,749人⇒41,477,321円、2009年度⇒2,825人⇒30,263,568円、2010年度⇒2,665人⇒26,776,407円）しています。各クラブ会員の皆さまに目標額達成に向けてご協力をお願いしているところですが、なかなか目標額を達成することができません。



前述のとおり、米山記念奨学生の割り当て数は、前年度の地区の寄附金総額に対して決まります。2011年度の割り当て数は17人でした。年々縮小の傾向にありますが、2010年度と同じでした。この受け入れ奨学生を17の世話クラブと17人のカウンセラーにお願いするわけですが、大学の所在地との関係により特定のクラブに偏る傾向にあります。世話クラブ以外のクラブにできるだけ奨学生を派遣して米山奨学事業について、ご理解とご協力を賜りたいと思っておりますので、次年度も引き続きよろしくお願いたします。

〔写真は2011年度奨学生のオリエンテーション・カウンセラーガイダンス〕

## 地区米山学友委員会

委員長：大石 春雄  
(札幌はまなすRC)



### R財団学友・米山学友の交流を

最近の日本の若者は、内にこもりがちであり、外国への留学が減少していると聞いておりましたが、帰国報告会での財団学友は目を輝かせ体験を発表しており、留学の機会を与えてくれたロータリーに感謝を述べる姿を見たとき、日本の若者もまだまだ捨てたものではないと思いました。

札幌にも多くの外国人留學生が来ており、貪欲に勉学に励んでいる様子を目の当たりにし、この若者と、北海道に留学している外国の若者とが交流できれば素晴らしいことではないだろうか考え、早速、斉藤財団学友委員長、財団学友の役員、そして米山学友会の役員の皆様と協議し、毎年開催している「米山学友会家族会」に参加をして頂くこととなりました。

6月11日当日、財団学友5名、米山学友（家族含む）11名、米山奨学生（家族含む）16名ロータリアン（家族含む）24名全員で56名が集い財団学友、米山学友からそれぞれ2名の方に留学時の思い出等をスピーチしてもらい、テーブルでは共に語らうなどお互いの交流が深まった事と思われ、第1回目の交流としては、成功ではなかったのかと思っております。今度は財団学友の会にも米山学友の皆さんが是非出席して欲しいと申し出もあり、今後益々交流を深めることにより、日本と諸外国の留學生同士の絆が深まり、やがては両学友の皆様がロータリアンになってくれることを願いながら、今年度も終えます。関係者全員に心よりの感謝を申し上げます。



## 地区職業奉仕委員会

委員長：山本 雅昭  
(苫小牧北RC)



本年度は、ロータリーの源流の理解に努めていただき、そして、子どもたちの出前事業・職場体験に協力し、こどもたちに心に残る記憶を高め、未来ある子ども達の手助けをして欲しいとお願い致しました。

また、RI会長並びに佐々木ガバナーの重点目標として掲げられた公共イメージを高め、その高潔性を高めるために、職業奉仕の倫理観を考えていただき、それぞれのクラブで独自に行なうことを奨励させていただきました。

結果としては、その倫理高揚およびプロジェクト等に対する意識を高めていただけたのではないかと思います。

新年度の地区職業奉仕委員会が始まると同時に、各クラブからの卓話要請があり、10月の職業奉仕月間における地区内クラブでの卓話に地区職業奉仕委員会委員の皆様のご協力をいただき対応させていただきました。私が行きま

した札幌ロータリー・クラブではロータリーの源流についてお話させていただきました。満足なお話ではなかったのですが、帰り際にロビーで伊藤義郎RI元理事、富原薫PGに「とても格調高いお話だったですよ。」と声を掛けてくださいました。感激しました！

3月には東日本大震災がおこり、当地区に於きましても早い対応の支援が行なわれました。更に、地区大地震救援奉仕プロジェクト委員会を立ち上げ中長期にわたる支援の為に委員会として活動が始まり、5大奉仕委員長もその委員として活動に対応することとなりました。貴重な経験をさせていただいております。知識の乏しい私でも知恵を振り絞り、よい方向性を見極め、被災地域の要望に応えられるプロジェクトをおこなって行ければと思っております。

職業奉仕委員会は、地域に根づいた新しい職業奉仕を見つめる委員会と考えております。職業奉仕の未来を考えさせられた1年でした。

## 地区社会奉仕委員会

委員長：阪崎健治朗  
(札幌西RC)



### 過ぎる年を顧みて

3月、まもなく私は自分の仰せつかっておりました3年間の任務から解き放たれる時期を迎え、責務から離れることに、いささか肩の荷を降ろしておりました時、佐々木ガバナーから、東日本大震災救援活動をするべく、委員会を立ち上げたい、との強いご意志を伺いました。私は新たな任務を頂いたことになりました。

ここでは過去、地区社会奉仕委員会の一員として、長いようで短かった活動を顧みることにいたします。ロータリーは一貫して「奉仕」という括りの中で、「職業・社会・国際」という活動分野を主体として取り組んできました。同時に社会のニーズに合わせて、ロータリーの使命と受け止めた活動はさらに広がり、大きな貢献を果たしてきました。このように、日本のロータリーの世界は、「奉仕」という言葉に結集力を求めてきたように思います。

とりわけ、社会奉仕は、時代とともに人びとの心にある「お互いさま」意識を底流に持ちながら、弱った時には、力になり、気が衰えた時には、勇気付け、困った時には一緒に考える、という人間であれば、当たり前のことをずっと続けてきたように思います。継続と創造の力こそ、ロータリーの源流の一つだと理解しております。

過ぎる3年間を顧みて、私は幾つかの感謝をお伝えしたいと思います。

第1は、当委員会の委員各位が献身的に取り組まれ、仲間としても共同意識を高めてくださったことに対してです。第2は、歴代のガバナーやパストガバナーの優れたリーダーシップによってサポートを頂いたことに対してです。第3は、私どもが企画した「ブロック別意見交換会」の継続実施が全クラブに浸透し、全面的なご協力を頂いたことに対してです。

この他、目には見えない部分も含めて、役務を通して多くの喜びと誇りを頂きました。もう一つ大切なことがあります。当年度最後の作品として「明日へ」という冊子を刊行したことです。佐々木ガバナーのご熱意により、進められたものです。こうした出版物が、今後の活動にいささかのお役に立てていただければ望外の喜びであります。

改めてこの年度を含めて、3年間大きなご指導とご協力いただいたことに心から御礼を申し上げ、報告といたします。

## 地区国際奉仕委員会・地区世界社会奉仕委員会

委員長：手塚貴志  
(白老RC)



### 君の瞳は100万ボルト

亡くなった父が会員だったこともあり、2001年にロータリーに入会するもその意義が見いだせないまま数年が過ぎ、2005年に誘われるままWCS事業の検証旅行に参加しました。

WCS(世界社会奉仕)がなんたるかも知らず遠藤秀雄パストガバナー、斉藤修弥WCS委員長

にお供して物見遊山でタイのノンカイへ参りました。現地ガイドから簡単なタイ語の挨拶と可愛いからと子供達の頭を撫ぜたりしてはいけないなどと注意を受けながら検証先の小学校へバスが到着しました。

「えっ何この光景は!!」校庭の入り口でバスを降りた私達を待っていてくれたのは、「サワディカップ、サワディカー」と道路の両脇にまっすぐに整列し合掌して迎えてくれた数百人の子供達でした。靴、サンダルの子もいれば裸足の子もいます。

一心に合掌、挨拶をする子供達のきらきらと輝く瞳は100万ボルトでした。

学校関係者、お坊さん、村長さんなど地域の重鎮の皆さんが揃い、寄贈した浄水器の引き渡しのセレモニーが始まりました。お礼の挨拶のなかで浄水器のきれいな水は子供達だけではなく、その集落の住民の貴重な生活用水の水源となっていることを聞き、そのWCS事業の意義の大きさ、深さに感動いたしました。

「そうか!!これがロータリーなんだ」それまで、もうロータリーを辞めようかと思っていた私の心は一転し、WCSの伝道師と化し、ことあるごとにロータリーの素晴らしさを人に伝えるようになりました。所属する白老RCも以後国際奉仕事業として毎年この浄水器事業に参加しております。この事業に参加してから国際ロータリーらしく少し「あかぬけ」したクラブになったような気がします。

そんな私が2010年度佐々木正丞ガバナーにWCS委員長(中途から国際奉仕委員長兼務)を命ぜられ、委員の仲間の皆さんに助けられ無事一年間務めることができましたことに心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



## 地区新世代委員会

委員長：柳 孝一  
(札幌幌南RC)



昨年度、気軽な気持ちで引き受けた新世代委員長でした。しかし、規定審議会で「第五奉仕部門、『新世代奉仕』を加える件」が承認され、にわかに新世代が注目されはじめ、地区委員長を受けたことを後悔するまもなく、佐々木年度が始まりました。

予定になかった「地区大会で並行プログラムを企画・運営をして欲しい」という佐々木ガバナーの意向を、久保田地区代表幹事から聞かされ、どうしようと途方に暮れましたが、札幌RC、地区委員、札幌グランドホテルのスタッフの皆さんに助けられ、何とか成功裏に終わることができ、ほっと胸をなでおろしました。予想より多いロータリアンに参加して頂いた事に感謝します。(詳しくは地区大会の記録誌DVDをご覧ください)

ほとんど活動は終了した気分でしたところ、熊澤ガバナー・エレクトから「地区協議会で新世代の分科会を開催する」と宣言され、一瞬国外逃亡しようかとも考えました。しかし、杉江次期地区代表幹事の助言もあり、なんとか踏みとどまり、新世代部門のリーダーをさせて頂くことになりました。分科会は、事前に各クラブへ新世代奉仕活動のアンケートを行い、それを元に展開しました。アドバイザーの酒井パストガバナーからは直球のアドバイスを頂き、参加者のロータリアンからできるだけ発言を頂く事を念頭に会を進めました。

新世代と言えば「インターアクト」「ローターアクト」「青少年交換」「RYLA」のRI常設のプログラムに目が行きがちですが、スポーツ大会や芸術系イベント等の後援や運営を行っているクラブも数多くあり、活発な意見交換が行われました。ホテルのガラス張りチャペルを会場とし、有意義な2時間であったと確信しています。

来年度も2年目の新世代委員長を務めさせて頂きますが、五大奉仕になったことを機に、「インターアクト」「ローターアクト」「青少年交換」に関わるクラブが今以上に増えることを望みます。

## 地区ローターアクト委員会

委員長：蝦名大典  
(札幌南RC)



### 地区ローターアクト委員長 一年目

3年間の地区委員を経験させていただき、今年度からは委員長という大役をやらせていただくことになりました。

地区内クラブ数の減少、会員数の減少など問題点は多くありますが、そこはまだまだ若いローターアクターたち。与えられた人数と条件で今年度も元気に活動をしてくれました。

エコキャップ運動も継続し昨年並みの成果を挙げる事ができました。

隣の2500地区との交流は北海道交流会の他にもお互いの地区大会に参加をしたり、地域の活動に参加したりとより強いものになってきていると感じます。

埼玉で行なわれた全国研修会では、ロータリー部門に出席し各地区の委員長とディスカッションをして参考になる意見や活動内容を聞かせていただきました。

海外研修では中国チンタオにある日本語を学んでいる大学生との交流を中心に学内や寮を案内していただき、学食での昼食も体験しました。ここでは今の日本の学生とは違ったエネルギーを感じました。

この一年間委員長としてローターアクターたちと共に活動をし勉強になることばかりで自分に何が出来たのか、まだ手探りの状態です。

来期はより会員が減少するものと思われそうですが、新世代委員会と協力し各ロータリークラブへの卓話を通し、より良いプログラムに出来るようバックアップをしたいと考えます。

## 地区インターアクト委員会

委員長：若松 孝  
(札幌モーニングRC)



### 2年目が終わりました

地区インターアクト委員長としての2年目が終わりました。私のようなものが委員長になり、はたして地区としてどうだったのか？大変不安であります。

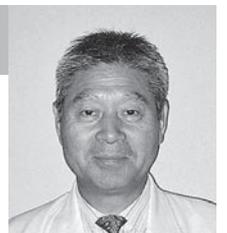
今年、海外研修旅行先を変え、韓国から香港にいたしました。交流先は、香港大学專業進修学院の日本語を学ばれている生徒さん。理由はさまざまあるのですが、一番大きな理由はインターアクターに国際的な友人を作る機会を与えたいということでした。香港の日本語を勉強されている生徒さんですから、なんとか英語と日本語で通訳なしでコミュニケーションがとれるのでは・・・と考えたからです。結果は大成功で、私が考える以上に素晴らしい交流ができたと自負しております。熊澤年度では、これをさらに改良し、香港の家庭訪問などをさせていただき、国際理解のきっかけになればと考えております。

またインターアクト年次大会はホストクラブの札幌東RCさんのご尽力により、とっても感動的な大会となりました。特に「地球のステージ」という舞台は多くのインターアクター、ロータリアンにぜひ見ていただきたいものでした。

力不足なのは、インターアクトの活動を地区のロータリアンのみなさまにうまくお伝えできないこと。これは、一年目からの課題で、そしていまなおうまくできません。この文章をお読みになっていただいた方から、少しでもインターアクトの活動にご興味を持っていただけると幸いです。一年間、ありがとうございました。

## 地区青少年交換委員会

委員長：渡邊 哲則  
(札幌東RC)



### 青少年交換委員会－この一年

2010-11年度は青少年交換委員会にとりまして、まさに激動の年度でした。2010年夏に2510地区から7名の交換学生を派遣し、アメリカ、カナダ、フィンランドから合計4名の学生を受け入れました。しかし、10月に本人の病気でアメリカからの女子学生が早期帰国し、さらに、

12月には本国の母親の病気で、もう一人のアメリカからの男子学生が早期帰国しました。そして、3月11日の東日本大震災で、2011年1月末に来日したばかりのオーストラリアからの学生2名が、震災直後に帰国することとなりました。東北、関東、東海地区を中心として交換学生が続々帰国し、交換の継続が危ぶまれる事態となりました。4月には緊急の全国青少年交換委員長会議が開催され、交換学生の受け入れに際して、全地区が協力体制をとることが確認されました。家庭の事情で交換開始が遅れていたオーストラリアからの受入女子学生が5月に、震災後34地区発の来日となり、6月の年度末時点でカナダ、フィンランド、オーストラリアの各1名合計3名在籍という淋しい状況となってしまいました。5月には松山で第16回国際ロータリー日本青少年交換研究会が開催され、翌年度が札幌で開催されることから、視察を兼ねて帰国学生2名を含め当地区からは8名が参加しました。この会議には日本各地からガバナー、パストガバナーや青少年交換担当者が集い、国際会議であることから、遠くはブラジル、台湾、韓国からも多くのロータリアンが参加しました。この会議に合わせて、ROTEX(帰国学生)の全国会議が開催され、夜を徹してROTEXのみなさんが語り合っていました。ROTEX全国会議は来年4月の札幌会議でも開催される予定です。7月には当地区と2500地区と合同で、受入学生を対象とした北海道周遊旅行を初めて企画しました。札幌をスタート地点とし、函館、紋別、道東、道央そして洞爺湖を7泊8日で回りました。知床では思いもかけず、ドライブ中にヒグマと遭遇し、学生達は歓喜の声をあげていました。来年度も規模を拡大して北海道周遊旅行を企画したいと考えております。昨年夏当地区から派遣した7名の学生も1年間で大きく成長し、たくさんの思い出とともに元気に帰国してくれたことは何よりも嬉しいことです。



ニューオリンズ国際大会「青少年交換晩餐会」にて田中作次RI会長ノミニニと記念撮影

## 地区ロータリー財団委員会

委員長：岩城秀晴  
(札幌南RC・PG)



### 財団の未来の夢計画に理解をしましょう

2013年からの財団は、未来の夢計画の実施となりますが、それまでは従来の型のプログラムでそれぞれ奉仕活動することになります。

ロータリー財団はロータリアンとしての奉仕の理想で、他の人々を思いやり、他の人々の役に立つことだと云われております。

そこで、現実面では個人100ドルを寄付する。恒久基金、使途指定、大口寄付、ポール・ハリス・ソサエティへの協力をすることを皆様方に要請させて戴きました。11月の財団月間には、特に佐々木ガバナーのご要請により、月信に2ページに及ぶ財団に対する理解と協力のご要請を致しました。そして、我々ロータリアンの社会に対する奉仕について心ある会員に訴え続けました。

また、地区内の苫小牧北RC、函館五稜郭RC、札幌RC、千歳RC、小樽RC、札幌南RCの各クラブで卓話を実施致しました。加えて、ロータリー財団も2013年度から「未来の夢計画」による各プログラムへの移行となりますので、これからの実施プログラムを財団セミナーのある毎に説明を致しました。なかなか一度にご理解をして戴くには十分な時間が必要と思われまます。

未来の夢計画によるロータリー財団は、現在の事務量を減ずることが可能であり、かつ、地区密着のプログラムに力を注ぐという形となって進められる、正に夢計画となるでしょう。

翻って、本年2月9日にタイ国のノンカイ地区の小学校に浄化器の設置をしたWCS事業の検証に行きまして。我々ロータリアンの他国(他地区)とのマッチング・グラントによる事業でした。WCS委員会の方々と厳しい旅行でしたが、楽しみのある良い思い出ともなったことと思考されました。

どうか、この1年間は皆様方にご要請のみを申し上げましたが、来年度も再度のお付き合いを願ひましてご報告と致します。

## 地区GSE委員会

委員長：沼館 栞  
(札幌清田RC)



### 今期GSE委員会を終えて

今期研究グループ交換委員会の仕事は、次年度の相手国を探すことから始まりました。当初、予定しておりました受入だけのプログラムが出来ず、単年度での受入派遣の両方をしなければならなくなり、予算のこともあり相手国の決定が決まらず心配しましたが、お陰さまでドイツはバイエルン州ミュンヘンを中心としたR1第1840地区との交換が決定致しました。相手国が決まりましたからは、いつもは苦勞します派遣団員を率いますところのチームリーダーも札幌東RCの矢橋潤一郎会員にお受け頂き、またドイツからの派遣団員の受入れグループも第2(ホストクラブ・滝川RC)、第4(ホストクラブ・札幌モーニングRC)、第6(ホストクラブ・小樽RC)、第8(ホストクラブ・静内RC)グループがお引き受け下さり、5月末には1回目のコーディネーター会を開く事ができました。そして6月5日には、当2510地区からの派遣団員の選考試験をし、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、財団委員長、派遣チームリーダーにも早朝からお出で頂き、厳正な審査の結果4名の団員を決定致しました。今回はスポーツ・芸術を通じて青少年の育成に関わる職業、もしくは物づくりに関わる職業に従事している人ということで募集をしましたが、職業に取り組む姿勢が素晴らしい方達が選ばれ来年4月の派遣まで毎月1回、国外研修の準備を行ないます。

なお当地区からの派遣団員をお引き受け下さいましたスポンサークラブ、またR1第1840地区からのGSE団員受入のクラブ、コーディネーターの方々に心よりお礼を申し上げます。

最後に1970年、アメリカはアイオワを初めに交換事業が始まり、GSE(研究グループ交換)という名称で40年あまり続いてまいりましたが、次年度からは職業研修委員会と名称が変わります。次々年度は交換事業がございませんので、ドイツR1第1840地区との派遣交換が従来のGSEプログラムとする最後の事業となり、2013-14年度からは新しい内容の職業研修委員会となります。どうぞ皆様、今まで同様にご協力のほど宜しくお願い致します。有難うございました。

---

## 地区国際親善奨学金委員会

委員長：矢橋潤一郎  
(札幌東RC)



### 飛び込み奨学生

7月9日(土)、今年度の財団奨学生のための壮行会を開催しました。1年間オリエンテーションを受講した3名です。ひとりはずでにニュージーランドへ向けて出国。2名の門出を熊澤ガバナー、岩城地区ロータリー財団委員長はじめ、推薦クラブのみなさまや学友会の先輩方とお祝いしました。

その際、奨学生バッジを岩城委員長につけていただき、推薦クラブからはお祝いの言葉と一緒にクラブバナーを贈呈していただきました。

海外で研究したい、だから奨学生に推薦してほしい。そのような形で、ご縁のない学生さん、いわば「飛び込み」での推薦はたくさんあります。学生が知り合いのロータリアンに頼む、というのはなかなかありません。ローターアクトでもなければ、20代の学生の周りにそうそうロータリーは登場しないでしょう。それはわかります。ならば親御さんのお知り合いは？これまた意外にいません。本当にいないの？ちゃんと探した？というほどみつかりません。それが本当なら、まさしく巷で都市伝説とされている「ロータリークラブは秘密結社」みたいな話。広報が下手、PRがヘタと揶揄されるロータリーですが、実態が薄過ぎて地下組織扱いです。

そんなわけで「飛び込み」はよくあるパターン。だからといって推薦に力が入らない、とは限りません。私のホームクラブでの推薦も「飛び込み」が大半です。最初はどこの馬の骨状態です。が、例会に顔を出してもらっているうちに馴染んできます。特にカウンセラーは、1年かけて思い入れが強まります。出発の頃には、個人的に送別会を催

してあげよう、くらいに仲良くなります。

今回のおふたりは、深川RCと江別RCに推薦いただきました。ふたりとも地縁です。ご近所のお嬢さんを送り出すような雰囲気です。ふたりに共通するのは、出身地で推薦されながら、大学は道外。3月に卒業して、ようやく生活の拠点をそれぞれの実家に戻しました。

実はもうひとりの、壮行会に出られなかった奨学生も、道外在住。つまり奨学生候補者全員、オリエンテーションのためにわざわざ道外から飛んできていたわけです。往復の交通費だけでも結構なもの。そこまでして当地区で奨学金をもらう意味があるのか。と思う一方、そこまでして頑張る姿勢があれば、海外での研究もうまくいくものと期待します。

## 地区財団学友委員会

委員長：齊藤博司  
(千歳セントラルRC)



### 2年目の委員長

委員長としての務めも2年目をむかえ、過ぎようとしています。この1年では、従来からの財団学友会のサポート的な行事として第7回財団学友帰国報告会を2011年2月5日に開催いたしました。この報告会では、新しく学友コーディネーターの佐藤秀雄パストガバナー様（千歳RC）及び米山学友委員長の大石春雄様（札幌はまなすRC）をお迎えしてのはこびとなりました。地区大会では、ブースを設置しての財団学友会の参加でした。学友会のRCへの啓蒙に大いに貢献したものと思います。そして、学友による各RCでの卓話も学友会の認知に一役かっていると信じております。学友OBのRC会員が1名また誕生します。これは喜ばしいことです。

上記の行事については、財団学友委員会及び財団学友会としての通例のものとして実施しております。新しい試みとして、本年度は2012年2月に財団学友会創立10周年記念事業へ向けての準備・検討委員会を学友会中心に月一回のペースで実施しております。熱い議論が出るわ出るわの検討会がつづく毎会議です。また、学友会と云う名称は米山学友委員会と財団学友委員会とが当2510地区の組織図に入っています。これら学友委員会の横の繋がりを何かの形にし、且つ国際感覚を身につけた留学経験者をロータリー活動及び地域ボランティアとして参加などに貢献できればと思う。その一環として、5月11日に長沼RCによる第19回国際交流フェスティバルに当委員会として参加しました。残念ながら日時のずれから今回は学友の参加はかないませんでした。次回は是非に!!

2月の財団学友会による帰国報告会には米山学友委員長の参加をお願いいたしました。

そして、6月11日には米山学友家族懇親会に当委員会と財団学友メンバーとで参加し、大いに盛り上がりました。これら交流を通して学友による学友主体のRC設立への足がかりにしていく。会費の件・例会のありかた・他のRCとの関係・地区との折衝など多岐にわたり検討していかなければなりません。

最後に私的なことですが、6月4日学友委員長として財団奨学生3名（2012年7月以降に留学出発）の面接に参加させてもらいました。留学先の言語での自己紹介、頼もしいかぎりです。また、財団学友メンバーからのサプライズ的な小生の誕生日をひらいてもらったこと、うれしかったです。

## 地区補助金委員会

委員長：須田義雄  
(札幌南RC)



### 地区補助金委員長退任に際して

4年前、委員長を引き受けてくれないかと言われ、ガバナー事務所に行ったところ、すでにガバナー、ロータリー財団委員長、補助金委員長の3人にお越し頂いており、断りきれなかった事が思い出されます。

その多くは、文化的行事で音楽祭、各種スポーツ、特に少年野球・サッカー大会、各種施設の記念事業に協賛、クラブ創立記念事業に対する物品の寄贈、学童のお祭り協賛と環境保全を目的とする事業の数々、いずれも地域住民（特に少年・少女の育成）に密着したもので、中でも各種スポーツ大会は、子供たちが毎年楽しみにしていたものでありました。

私が就任した2008-2009年度は、補助金の内容について雲行きが怪しくなり、スポーツ大会に出す補助金は会場使用料のみに限定され、バス代、食事代、審判に対する報酬は不可となり、審査では全て査定の対象になりました。2009年7月に作られたロータリー財団地域セミナーハンドブックでは補助金の内容が明確に記載され、文化的活動には一切使用できなくなりました。具体的にはスポーツ大会の主催、子供の善行の表彰、慰問用楽器の寄贈、書道展、絵画展開催と表彰、コンサート、各種講演会開催など、従来地域と密着しコミュニケーションの場として広く喜ばれてきた種々の催し物一切が不適合となりました。

補助金制度については、私自身知らないでいたので勉強させて頂きました。一番驚いた事は、毎年申請するクラブ以外は全く知らなかったというのが大半で、最初の1年は事あるごとにPRを中心にしていまいりました。

次第に関心を持って頂くようになり、2年目は73クラブ中10クラブにも満たなかった申請が、20クラブの応募を頂きましたが、文化的活動の内容が感じられる物が全て認められないために、14件のみの審査となり最終的に12クラブのみが承認を終えました。

同年の地区大会で、日本事務局の片岡暎子女史の講演会があり、会場で質問したところ、スポーツ大会で青少年の健全化というのは駄目だが、大会に高齢者・障害者をお呼びして一緒に楽しむという内容であれば可能であるというご意見を頂きましたが、私自身は納得のいかないものでした。

同年から申請方法が変わり、地区がロータリー財団に提出する地区補助金授与計画に名前のないクラブは補助金を受けられない事になり、あらかじめプロジェクトの内容について、その意志があるかどうか、また補助金で購入する品目を具体的に、ガバナー事務所に提出することが必須となりました。

3年目の2010-2011年度では、2510地区の補助金計画を本部に報告し、その内容についてあらかじめ適当でない場合は、申請は無理との伝達を受ける事になりこの事は全クラブに通知致しました。地区補助金のプロジェクトは、人道的支援（健康、飢餓、貧困）などに直接的に取り組むことであり、困窮している地域社会、グループ、低所得者層、ハンディーキャップを持つ方々、老人などに恩恵がなければならぬとの指導がありました。私自身、本邦においては生活保護法で最低の生活が保障されており、近年立派な老人施設が国の補助により次々と作られ、介護保険法によって手厚くケアされている現状から考えると疑問を感じてはいられません。

環境美化が人道的か否かを別として、今年度の申請内容は植樹が7件と最も多く、後は従来と比べ小粒になったこと、これはセミナーハンドブックに記載されている内容を忠実に守った事がよく分かります。従来の補助金3万ドル（日本円で330万円）は今年度為替レートの変動により246万と最も少なくなった事も一因となっています。

今年度、ガバナーの地区目標である地域で密着した奉仕活動ですが、地域の方々との交流を深め、ロータリーの良さや奉仕活動をPRさせるためには、やはり文化的活動を含めた温かい思いやりのある地域住民との結びつきが大事であることを痛感しております。

2013-2014年度から、新地区補助金制度に移行します。従来のGSEやマッチング・グラントもこの中に入り、8つの項目に分類されますがその中で地区補助金については、内容を考え直す必要があると思いますし、どのような内容（文化的活動の復活）に変わるか楽しみにしております。

## 地区補助金監督委員会

委員長：中山裕視  
(札幌真駒内RC)



2010～11年度も多くの補助金申請がありました。補助金監督委員会は補助金の支出が公平且つ適正であるかといった観点から審査します。近年補助金は教育的、文化的奉仕活動は認められなくなりました。補助金支出の対象は人道的奉仕活動に限られることになりましたので、申請内容が人道的かどうかについて十分な検討をしました。また、人道的であっても第三者に丸投げは不可ですので、奉仕活動の熱意と努力姿勢についても十分な議論をしました。また、限られた資金枠ですので補助金の配分が公平であるか、といったことも十分議論しております。

委員会で上記の事柄を全員が十分な検討、議論をして慎重に審査して最終承認をしました。

一年間があっという間でありましたが、補助金に関係する多くの皆様方のご協力に感謝いたします。どうもありがとうございました。

## 退任の挨拶

地区代表幹事  
久保田俊昭 (札幌RC)



札幌クラブから15年振りに輩出した佐々木正丞ガバナーのスタッフとして、札幌クラブ在籍の5名の方に幹事に就任して頂いてスタートを切りました（橋本敏明会員、櫻井政経会員、指川司会員、長井伸樹会員、小生）。

幹事諸氏は、今迄に地区委員に就任して地区の業務に携わった経験が無く、佐々木エレクトにとっては心許無いスタッフ揃いで、さぞかし胃の痛む日々を過ごされたものと思いますが、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げる次第であります。

2009年10月に佐々木エレクト事務所を開設して初期段階の業務を開始しましたが、年内に先ず手がけたことは、佐々木ガバナーの分身としての直属のラインスタッフであるガバナー補佐並びに地区委員会構成の検討・地区委員長の選任でありました。

幸いなことに素晴らしいガバナー補佐に就任して頂き、12月に開催した「佐々木年度のガバナー補佐会議」では、地区研修委員会の塚原房樹PG、丸山淳士PG、酒井正人PGから「過去最強?のガバナー補佐群」とのお墨付きを頂いて順調な船出をしました。

2010年1月に佐々木エレクトがサンディエゴでの国際協議会での研修を終えられて帰国後、直ちにRI会長のテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」を受けての「地区目標」を定めるべく検討をすすめて、三つの地区目標を定めました（①CLPの導入検討 ②地域密着の奉仕活動 ③財団への協力支援）。とりわけ地区目標の一つである「CLP・DLPの導入推進」を図るために、地区組織に「CLP・DLP導入検討プロジェクトチーム」を新設し、地区のクラブ奉仕委員会と歩調を合わせてセミナーを開催する等、その導入促進に努めました（当組織は、2011～12年度も「クラブ強化推進委員会」として存続）。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災に即応して、直ちに地区内にその復興を支援するために「大震災救援奉仕プロジェクト委員会」を佐々木正丞ガバナーと熊澤隆樹ガバナー・エレクト両名の連名で組織を発足させて、これらが活動を開始しました。

ロータリー活動は、概して単年度型の活動が主体ですが、その中でガバナーとガバナー・エレクトとが心を合わせて、継続的な視点での活動を推進して頂けるのは、中長期の見地でも好ましいことと思っております。

なお、2010年2月に「ガバナー補佐・地区スタッフ会議」、3月に「会長エレクト研修セミナー」、4月に「地区協議会」を開催し、7月からは「ガバナーのクラブ公式訪問」、10月には「地区大会」と主要な行事を順調に遂行して参りました。この間、サポートして頂きましたホストクラブ・ガバナー補佐各位・その他の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

取り分け地区大会については、伊藤義郎国際ロータリー元理事からのオーダーもこれあって、地区大会開催の目的・要件・推奨事項等を十分に弁えた意義ある大会にすべく、ホストクラブの札幌クラブと連携を密にして実施し、成功裏に終えたことに満足感を覚えており、多数の関係者に深く感謝申し上げます。

私としましては、地区幹事の見習い期間を含めて実質2年間、我が地区内での特記事項（会員減少、CLP導入率の低さ等）を認識したうえで、さらには昨今の国際ロータリーとロータリー財団での「変革」を踏まえて、クラブの自主性を尊重しつつ、地区としてのクラブ支援のあり方や会員皆様の満足度向上に心配りをしてきたつもりであります。

しかしながら、浅学菲才の身でロータリーの知識に疎く、しかも実行力にも乏しいために、皆様に多大のご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます次第であります。

なお、佐々木正丞ガバナーからは、超一流・大会社のトップ経営者としての視点での昨今の経済状況等について身近で直接ご指導を賜り、また道内の多数のロータリアンと知己の輪を広げ、絆を強く結ぶことができましたことは一生の財産と思っており、貴重な体験をさせて頂いたことを深く感謝しております。

最後になりましたが、昨今の国際ロータリーやロータリー財団の動向は急ピッチで変革しておりますので、そのバスに乗り遅れることの無きよう、佐々木年度で遣り残した事項について、次期の熊澤年度、続く細川年度や安孫子年度で完遂して頂くことをお願い申し上げます。有難うございました。



## 小平RCの国際ロータリーからの脱会について

地区代表幹事 久保田俊昭

この6月末を持って、小平RCは国際ロータリーを脱会しました。小平クラブは、留萌クラブがスポンサーとなって、1974年7月に27名の会員によって創立されました。

爾来、会員相互の交流・親睦、地域での奉仕活動を地道に続けておりましたが、一時期在籍会員が6名までに減少したこともあります。その後、会員増強に努力をした結果、会員数も17名に増加し、クラブ活動を活発に続けてきておりました。

しかしながら、近年の過疎化に伴う後継者の不在、高齢化現象等により、この6月には会員数は7名になり、次年度以降のクラブ運営の見通しが困難視されるようになりました。

このために、現小平クラブ会長、留萌クラブ会長、地区第一グループのガバナー補佐等が懸命になってクラブ強化・存続に向けて努力をされましたが、現在の町行政の人脈、企業動向、高齢化現象等を考慮すると新たな会員入会も見込まれず、苦渋の選択として、この度、国際ロータリーからの脱会の道を選択せざるを得なくなった次第であります。

長年、当地区でクラブ活動を実践されました歴代のクラブ役員・会員の皆様のご尽力・ご精励に敬意を表しますとともに、後日の再起を祈念しましてご報告に代えさせていただきます。

IM  
報告

## 『食市食座』報告書

第2510地区 第12グループ

ガバナー補佐 **和歌宏侑**  
(白老RC)

2011年5月15日(日)、白老町中央公民館にて第12グループIMを開催致しました。当日は、佐々木正丞ガバナー、白老町長鈴木長蔵様、他12グループ4クラブの全員登録を頂き、RIテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」の基、「地域ニーズを踏まえて、地域密着の奉仕活動を実践しよう」を取り上げさせて頂きました。

白老の食材を活かし、白老の料理人が創る創作料理、題して「食市食座」。その昔、戦国武将・織田信長の時代、近江商人が商いの全てを支配していた時、「楽市楽座」令が公布されました。今で云う規制緩和であります。自由な発想で活性化を図りました。それが語源でございます。

白老は、良質で新鮮な海、山幸に恵まれた食材王国を自負する町であります。只、豊富な素材を生かした名物料理が無いのが実態であります。

そこで、白老料理の規制緩和「食市食座」と名打って、自由でオリジナリティーな創作料理発表の場としました。ロータリーメンバーを中心に、町内5団体が固定観念にとらわれない発想から生み出した、白老牛や虎杖浜たらこなどのメニューを発表、苫小牧、苫小牧北、苫小牧東、そしてホストクラブの白老ロータリークラブの会員、100名が白老産食材の美味しさとアイデアを堪能しました。

「食市食座」参加団体の主な出品作は

- ・白老青年会議所 「ささみとたらこのロールフライと鱈タラソーセージ」
- ・居酒屋いちひろ 「花どき御膳」「虎杖浜産虹鱒と長芋包みサフランソース添え」
- ・蛇の目寿し せんだ 「白老沖水だこのしゃぶしゃぶ春野菜添え」
- ・おおきな木 「コールコンソメ魚貝のゼリー寄せトマト添え」  
「白老牛のローストビーフと森の野菜」
- ・そば処 北味 「北味の冷しそばと白老牛すじ」

更には、東日本大震災復興への思いを含め、宮城県大崎市の蔵元、「一の蔵」をご用意致しました。

箸休めに、女流書道家・田尻弘雪氏によるパフォーマンス書道を畳2枚の大きさに「絆」文字を豪快に披露し、満場の拍手喝采をあげました。又、昨年の郷土民謡全国大会チャンピオン・八木美穂さんによる民謡ショー等の余興で大いに賑わいました。両名共、白老町出身であります。

IM終了後の5月25日、和歌ガバナー補佐、外崎白老RC会長が苫小牧民報社を訪問。「食市食座」の益金150,439円を東日本大震災被災地への義援金として第12グループ名で寄託しました。





IM  
報告

## IM・赤平RC創立50周年記念式典報告

第2510地区 第2グループ

ガバナー補佐

**渡部 芳己**

(赤平RC)

RI第2510地区第2グループIMが5月29日午後1時より交流センター「みらい」において開催されました。

前日、記念ゴルフコンペがあり熊澤隆樹ガバナーエレクトにもご参加を頂き、予想された天気は雨でしたが晴れまして大方のプレイヤーは雨に当たらず、まずまずのゴルフ日和となりました。

IM、当日は晴天にも恵まれ、来賓として佐々木正丞ガバナー、熊澤隆樹ガバナーエレクト、塚原房樹パストガバナー、渡邊恭久パストガバナー、滝勝美次期第2グループガバナー補佐のご臨席を賜り開催いたしました。



第2グループ参加クラブ登録数は、芦別RC35名、砂川RC30名、滝川RC70名、赤平RC30名、さらに、他のグループから、小樽RC、深川RCの登録もいただき、実質登録171名でした。

熊澤隆樹ガバナーエレクトの紹介、挨拶に続き、滝勝美次期ガバナー補佐に4クラブの次期会長・幹事のご紹介とご挨拶を頂き、続いて北谷好文前年度ガバナー補佐に記念品の贈呈を行いました。

今年度もIMと周年記念式典との同日開催でしたので時間的な制約は否めない事情の中での開催でありました。今年度のIMテーマは「CLPの導入検討しよう」でありました。

フォーラム形式で、初めに4クラブ1名のパネラーから、今年度、クラブでCLPの導入について検討されたことを発表頂き、塚原房樹地区研修リーダーに、それぞれのクラブ実情に合ったコメント、アドバイスを頂きました。最後に、佐々木正丞ガバナーより講評を頂き終了しました。

その後、赤平RC創立50周年式典が行われ、石炭産業が隆盛を誇っていた時代から今、工業都市として変貌を遂げ、そのリーダー的企業として頑張っているロータリー会員の企業等がDVDで紹介され、式典が始まりました。

多彩な記念事業が紹介され、記念講演を予定していた方が間もなく取監されることになり急遽中止となり、講演料を東北の被災地への義援金としてお送りしました。その、釈明会見を宮川徹実行委員長が行ったところ会場が笑いに包まれ、ロータリーの友情を感じた場面でもありました。

小さなクラブではありますが会員一人一人がそれぞれの任務を真剣に頑張った結果の成功でした。





**新入会員  
のご紹介**

(敬称略)



倶知安RC  
追立 正夫  
2月9日入会  
介護施設業



芦別RC  
川邊 弘美  
4月1日入会  
社会福祉施設



小樽南RC  
菊池 友美  
5月5日入会  
歯科医師



札幌清田RC  
三浦 信一  
5月10日入会  
司法書士



札幌北RC  
藤城 英明  
5月23日入会  
建築工事



札幌北RC  
嶋田 久昭  
5月23日入会  
不動産管理



苫小牧RC  
大橋 邦一  
6月3日入会  
石油精製



札幌清田RC  
川端 美枝  
6月7日入会  
西洋料理店



苫小牧RC  
関口 厚志  
6月10日入会  
洋紙製造



苫小牧東RC  
亀田 光男  
6月16日入会  
不動産管理



苫小牧東RC  
佐藤 聰  
6月16日入会  
ホテル



恵庭RC  
瀬戸 伸  
6月23日入会  
自動車販売



伊達RC  
桜井 博  
6月28日入会  
砂糖製造



札幌真駒内RC  
後藤 潮  
6月30日入会  
ホテル

**訃報**

謹んでお悔やみ申し上げますとともに  
心からご冥福をお祈り致します



**榊原二三夫会員 (砂川RC)**

2011年5月7日逝去(享年52歳)

- 【ロータリー歴】  
2000年7月 入会  
2002~03年度 社会奉仕委員長  
2008~09年度 幹事  
2010~11年度 親睦委員長



**佐藤洋之会員 (札幌清田RC)**

2011年5月25日逝去(享年52歳)

- 【ロータリー歴】  
2004年7月6日 入会  
2005~06年度 新世代委員長  
2008~09年度 職業奉仕委員長  
2009~10年度 プログラム委員長



**齋木達雄会員 (芦別RC)**

2011年5月30日逝去(享年64歳)

- 【ロータリー歴】  
1990年5月25日 入会  
1997~98年度 会長(第41代)  
2007~08年度 ガバナー補佐  
【表彰関係】  
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



**白崎繁仁会員 (札幌東RC)**

2011年6月7日逝去(享年90歳)

- 【ロータリー歴】  
1971年1月7日 入会  
1979~80年度 社会奉仕委員長  
1986~87年度 職業奉仕委員長  
1990~91年度 会長  
1995~96年度 地区第5分区代理  
【表彰関係】  
ロータリー財団メジャードナー  
ベネファクター  
米山功労者(3回)



**谷口良一会員 (札幌北RC)**

2011年6月14日逝去(享年82歳)

- 【ロータリー歴】  
1971年5月24日 札幌北クラブ  
チャーターメンバー  
1973~74年度 幹事  
1987~88年度 会長  
2003~04年度 クラブ奉仕委員長  
他、各委員長歴任  
【表彰関係】  
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー  
ベネファクター  
米山功労者

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

◇ マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

江別RC	藤原 敏雄	会員(1回)	5月13日
小樽南RC	北野 明宣	会員(2回)	5月20日
小樽南RC	吹越 範義	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	唐橋 宥	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	西 信博	会員(3回)	5月27日
小樽南RC	大倉 俊一	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	大竹 秀文	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	岡島 章	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	佐藤甚兵衛	会員(2回)	5月27日
小樽南RC	高木 正光	会員(1回)	5月27日
小樽南RC	渡邊 雅敏	会員(3回)	5月27日
小樽南RC	山吹 啓之	会員(1回)	5月27日
苫小牧RC	市町 峰行	会員(1回)	5月27日
苫小牧北RC	矢部 繁	会員(2回)	5月31日
芦別RC	齋木 達雄	会員(2回)	6月17日
芦別RC	坂田 憲正	会員(2回)	6月17日

岩見沢RC	中塚 力	会員(2回)	6月30日
札幌手稲RC	石田 誠	会員(6回)	6月30日
小樽南RC	柴田 達朗	会員(1回)	6月17日
小樽南RC	小笠原俊介	会員(1回)	6月17日
七飯RC	上野 一義	会員(1回)	6月24日
七飯RC	山内 一男	会員(1回)	6月24日

◇ ポール・ハリス・フェロー

小樽南RC	本間 清治	会員	5月27日
小樽南RC	宮川 伸二	会員	5月27日
小樽南RC	鈴木 崇史	会員	5月27日
小樽南RC	渡邊 信	会員	5月27日
苫小牧RC	青地 洋一	会員	5月27日
美唄RC	高瀬謙二郎	会員	6月10日
小樽南RC	東 慶広	会員	6月17日
七飯RC	川又 修治	会員	6月24日
函館セントラルRC	葛西 功	会員	6月30日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

◇ 米山功労者

美唄RC	井門 英明	会員(7回)	5月26日
札幌RC	佐々木正丞	会員(10回)	5月16日
札幌東RC	野村 昭光	会員(15回)	5月31日
小樽RC	半田 善行	会員(1回)	5月10日
小樽RC	山田 雅敏	会員(1回)	5月10日
浦河RC	三好 吉男	会員(1回)	5月18日
函館五稜郭RC	酒井 正人	会員(13回)	5月13日
滝川RC	岡本 皓	会員(1回)	6月21日
滝川RC	山口 清悦	会員(1回)	6月21日
江別西RC	石黒 良平	会員(3回)	6月 1日
岩見沢RC	谷 勲	会員(2回)	6月29日
札幌モーニングRC	大熊 慧教	会員(4回)	6月17日

札幌手稲RC	福井 敬悟	会員(3回)	6月30日
札幌幌南RC	佐々木雅之	会員(1回)	6月28日
札幌幌南RC	佐藤 泰寛	会員(1回)	6月28日
札幌幌南RC	戸井 敏夫	会員(6回)	6月28日
札幌幌南RC	柳 孝一	会員(1回)	6月28日
札幌南RC	熊本 努	会員(3回)	6月16日
静内RC	西村 和夫	会員(1回)	6月23日

◇ 米山功労クラブ

札幌RC	28回	5月16日
小樽RC	8回	5月10日
札幌モーニングRC	15回	6月17日
札幌手稲RC	23回	6月30日
函館亀田RC	4回	6月27日



## 出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2010.7.1	2011.5.31	増減	内女性	
1	深川	4	33	33	0	1	90.50
	羽幌	3	49	51	2	1	86.40
	妹背牛	3	8	10	2	0	83.30
	小平	4	11	7	-4	0	28.60
	留萌	3	43	45	2	3	78.24
	小計		144	146	2	5	73.41
2	赤平	4	31	30	-1	0	77.73
	芦別	4	37	38	1	1	79.58
	砂川	3	51	49	-2	0	94.42
	滝川	3	91	94	3	2	63.00
	小計		210	211	1	3	78.68
3	美唄	3	35	35	0	0	83.83
	江別	3	32	30	-2	2	75.27
	江別西	4	25	27	2	3	89.80
	岩見沢	3	81	84	3	0	91.17
	岩見沢東	4	27	25	-2	4	81.12
	栗沢	3	23	23	0	1	98.40
	栗山	5	25	28	3	2	97.72
	当別	4	30	29	-1	0	79.07
	小計		278	281	3	12	87.05
	4	札幌	3	115	120	5	0
札幌あけぼの		3	13	15	2	2	100.00
札幌はまなす		4	18	19	1	4	78.95
札幌北		4	35	42	7	6	93.81
札幌モーニング		3	51	49	-2	0	72.89
札幌西		4	56	55	-1	5	89.56
札幌西北		3	35	34	-1	5	96.86
札幌手稲		4	34	36	2	2	87.50
小計			357	370	13	24	89.48
5	札幌東	2	109	109	0	0	100.00
	札幌清田	4	18	18	0	4	100.00
	札幌幌南	3	56	53	-3	0	100.00
	札幌真駒内	3	26	26	0	3	100.00
	札幌南	4	74	76	2	0	99.02
	札幌大通公園	4	11	10	-1	2	70.00
	札幌セントラル	4	10	9	-1	5	69.50
	新札幌	3	28	29	1	3	82.05
小計		332	330	-2	17	90.07	
6	岩内	3	17	20	3	0	77.77
	倶知安	3	37	40	3	5	78.20
	小樽	3	68	71	3	0	87.88
	小樽南	3	74	75	1	2	92.56
	小樽銭函	3	23	21	-2	2	62.00
	蘭越	5	9	9	0	0	100.00
	余市	2	41	43	2	4	88.00
小計		269	279	10	13	83.77	

## 5月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,633人
当月末会員数(女性)	2,670人(116人)
増加会員数	37人
当月平均出席率	84.60%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			2010.7.1	2011.5.31	増減	内女性	
7	千歳	3	54	56	2	2	87.49
	千歳セントラル	3	34	34	0	1	81.37
	恵庭	3	44	47	3	3	84.85
	北広島	4	11	12	1	0	95.83
	長沼	3	20	20	0	3	85.50
	由仁	3	9	9	0	1	92.59
	小計		172	178	6	10	87.94
8	えりも	3	22	23	1	1	97.10
	三石	3	14	15	1	2	73.30
	様似	4	23	23	0	1	94.60
	静内	3	74	72	-2	0	86.47
	浦河	4	35	34	-1	2	100.00
	小計		168	167	-1	6	90.29
	9	伊達	3	56	58	2	0
室蘭		3	42	42	0	0	80.48
室蘭東		3	38	39	1	0	90.83
室蘭北		5	38	38	0	3	100.00
登別		3	31	32	1	1	84.38
洞爺湖		3	7	10	3	0	83.30
小計			212	219	7	4	86.38
10	函館	3	82	81	-1	0	75.82
	函館亀田	4	35	40	5	4	90.26
	森	3	39	41	2	0	52.00
	七飯	4	14	14	0	0	78.00
	長万部	3	8	8	0	0	87.50
	函館セントラル	4	29	30	1	3	68.34
	小計		207	214	7	7	75.32
11	江差	4	14	11	-3	1	68.18
	函館五稜郭	4	45	43	-2	0	97.50
	函館東	3	44	46	2	6	84.56
	函館北	3	25	23	-2	0	97.50
	北斗	3	17	18	1	1	60.00
	松前	4	3	3	0	0	66.00
	小計		148	144	-4	8	78.96
12	白老	4	29	29	0	1	78.60
	苫小牧	3	53	53	0	2	83.01
	苫小牧東	3	25	24	-1	3	93.06
	苫小牧北	3	29	25	-4	1	97.33
	小計		136	131	-5	7	88.00
合計		2,633	2,670	37	116	84.60	

## 出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2010.7.1	2011.6.30	増減	内女性	
1	深川	4	33	33	0	1	85.00
	羽幌	4	49	51	2	1	84.70
	妹背牛	4	8	9	1	0	80.00
	小平	4	11	7	-4	0	50.00
	留萌	5	43	45	2	3	80.87
	小計			144	145	1	5
2	赤平	4	31	29	-2	0	75.15
	芦別	4	37	37	0	1	86.11
	砂川	4	51	48	-3	0	95.64
	滝川	3	91	94	3	2	70.00
	小計			210	208	-2	3
3	美唄	4	35	35	0	0	84.61
	江別	4	32	29	-3	1	85.83
	江別西	4	25	25	0	3	94.40
	岩見沢	5	81	81	0	0	90.82
	岩見沢東	4	27	23	-4	4	75.40
	栗沢	5	23	23	0	1	98.20
	栗山	4	25	28	3	2	97.23
	当別	4	30	28	-2	0	85.22
	小計			278	272	-6	11
4	札幌	5	115	115	0	0	97.17
	札幌あけぼの	4	13	15	2	2	100.00
	札幌はまなす	4	18	18	0	3	86.84
	札幌北	4	35	39	4	6	92.68
	札幌モーニング	5	51	47	-4	0	67.44
	札幌西	4	56	54	-2	5	89.26
	札幌西北	4	35	31	-4	4	97.65
	札幌手稲	4	34	35	1	2	90.10
	小計			357	354	-3	22
5	札幌東	5	109	110	1	0	99.02
	札幌清田	4	18	19	1	5	100.00
	札幌幌南	4	56	51	-5	0	100.00
	札幌真駒内	4	26	26	0	3	100.00
	札幌南	4	74	77	3	0	100.00
	札幌大通公園	4	11	8	-3	1	72.50
	札幌セントラル	4	10	9	-1	5	75.00
	新札幌	5	28	28	0	3	86.89
小計			332	328	-4	17	91.68
6	岩内	4	17	20	3	0	80.55
	倶知安	4	37	39	2	5	77.30
	小樽	4	68	66	-2	0	88.88
	小樽南	4	74	75	1	2	95.22
	小樽銭函	5	23	21	-2	2	78.00
	蘭越	4	9	9	0	0	100.00
	余市	5	41	43	2	4	84.00
	小計			269	273	4	13

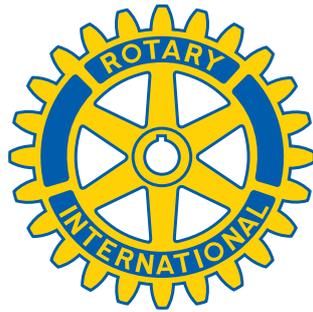
## 6月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,633人
当月末会員数(女性)	2,606人(112人)
増加会員数	-27人
当月平均出席率	85.86%

グループ	クラブ名	例会数	会員数				出席率
			2010.7.1	2011.6.30	増減	内女性	
7	千歳	5	54	54	0	2	77.58
	千歳セントラル	4	34	32	-2	1	86.57
	恵庭	4	44	47	3	3	84.65
	北広島	4	11	12	1	0	91.67
	長沼	3	20	20	0	3	89.20
	由仁	5	9	9	0	1	86.67
小計			172	174	2	10	86.06
8	えりも	4	22	23	1	1	93.47
	三石	4	14	15	1	2	80.00
	様似	4	23	23	0	1	92.40
	静内	5	74	69	-5	0	80.11
	浦河	4	35	34	-1	2	100.00
	小計			168	164	-4	6
9	伊達	4	56	56	0	0	80.35
	室蘭	4	42	40	-2	0	100.00
	室蘭東	5	38	37	-1	0	88.50
	室蘭北	4	38	38	0	3	100.00
	登別	5	31	32	1	1	84.38
	洞爺湖	4	7	10	3	0	85.50
小計			212	213	1	4	89.79
10	函館	4	82	77	-5	0	80.90
	函館亀田	4	35	39	4	4	91.63
	森	4	39	41	2	0	50.00
	七飯	4	14	14	0	0	85.00
	長万部	4	8	7	-1	0	75.00
	函館セントラル	4	29	29	0	2	72.96
小計			207	207	0	6	75.92
11	江差	4	14	11	-3	1	77.27
	函館五稜郭	4	45	43	-2	0	96.89
	函館東	4	44	45	1	6	85.24
	函館北	5	25	23	-2	0	97.27
	北斗	5	17	17	0	1	57.70
	松前	4	3	3	0	0	66.00
小計			148	142	-6	8	80.06
12	白老	4	29	28	-1	1	85.20
	苫小牧	4	53	48	-5	2	78.85
	苫小牧東	4	25	26	1	3	91.99
	苫小牧北	4	29	24	-5	1	96.83
	小計			136	126	-10	7
合計			2,633	2,606	-27	112	85.86



表紙：滝野すすらん丘陵公園のポピー  
撮影：(株)札幌振興公社 今野哲郎



ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2510

2010-2011

GOVERNOR

MASATSUGU SASAKI

**地域を育み、大陸をつなぐ**